

(5) 特別支援教育研究会 (通常学級)

会 長 中山 雅代 (中村中学校)
副会長 中西 佑太 (中村西中学校)
事務局 横山 新 (中村西中学校)

1. 研究主題 「一人ひとりに応じた支援を通して、子どもたちが生き生きと学べる授業づくり」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和7年 5月7日 (水)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、年間計画	中村中学校	13名参加
令和7年 8月1日 (金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：講演・演習 講師：中川貴之教諭 (高知大学教育学部附属中学校)	中村中学校	10名参加

3. 取組

最初に、先生たちの困り感やどんなことを学びたいかを共有した。共有した内容を基に講演を依頼し夏季研修会では、以下の7講座を組み立て実施してくれた。

- 講座1：特別支援対応のスキルの当たり前を見直す
- 講座2：なぜ個別支援がうまくいかないのか
- 講座3：脳科学の視点 どんな生徒でも安定させる指導法
- 講座4：”ほめる”という行為を見直しブラッシュアップ
- 講座5：ケーススタディ こんなときあなたならどうする？
- 講座6：1日を安定させる朝の会
- 講座7：模擬授業と分析

講座では、グループワークや模擬授業を通して、さらに理解を深めることができた。

【講演の感想】

- ・特別支援教育のことについて、具体的な実践例や指導方法について多く聞くことができたので大変有意義な研修になった。ありがとうございました！
- ・まずは全体支援から個別支援へ繋げていくこと、そもそも支援が入る生徒に育っているか…考えさせられました。中川先生の講話の中にすぐできるヒントを与えてもらいましたが、できそうで難しく、教師として何にこだわり実践していくか、この夏考えてみたいと思います。
- ・教室内の整備から、徹底して行うことが大事だなと思いました。自分たちの話す言葉やリズム、短い指示というのはよく聞いていたが9文字という具体的なしぼりをつけることで、意識して言葉を削り、工夫するようになっていきました。教師が生徒にとって一番の刺激であるということも納得するとともにハッとさせられました。
- ・授業を見る視点やする視点について、今後の授業づくりで大切なことをたくさん学ぶことができた。学力向上を目指し「生徒が本気になる問題・めあての設定」を中心とした研修を行っているが、その根底にまず、学習集団を高める必要があると日々感じている。本研修でまさしく授業づくりで大切な

ことができる生徒のみ伸びるような授業づくりではなく、合理的配慮を考えることで学習環境が整い、集団が学習に取り組むような仕組みを作っていくことの大切さを学ぶことができた。

- 自分の学校の児童を思いうかべながら、また自分の言動や行動におきかえながらお話を聞くことができました。児童との関わり方についてもう一度立ち止まって考えてみようと思いました。
- 三大神経伝達物質の大切さ、引き出し方等を詳しく教えていただき、脳科学の視点からの安定のさせ方、個に応じた学習意欲へのつなげ方を学ばせていただきました。児童生徒は、静かな温かい環境と、元気に活動する環境を設定し、その中で認めてもらえることで、落ち着きや安心感を持って学習活動ができる。教師が無駄な言葉にならないように、9音指示を目指し、2学期からの実践に活かしていきたいと思います。また、教職員全員で共有できるように、校内研修で伝達していきます。ありがとうございました。

4. 今年度の成果と課題

今現場で実践している先生から学ぶことで、自分事として研修にのぞむことができた。生徒の困り感に応じた内容であったので、すぐに実践できる内容となった。特別支援学級を担当している先生だけでなく、全ての先生にとって必要な視点であり、学んだことを教員間で共有する必要性があると感じた。そのような研修を行えたのは大きな成果であった。この研修で学んだことをそれぞれがどう各校の実践へと広げていくかが課題である。

今回の講師の姿から特別支援教育について、いつから勉強を始めても遅くないということがわかり、自分たちの学びの意欲につながった。

